

令和4年4月28日 議会改革特別委員会 議事録
10時00分 開会

○出席委員 (8人)

委員長 網谷 芳孝

副委員長 西村 一啓

委員 藤川 和弘、原田 孝徳、小中真樹雄、小田上尚典、北地 範久、
日域 究

議長 賀屋 幸治

○欠席委員 なし

○網谷委員長 皆さん、おはようございます。

それでは定足数に達しておりますので、これより議会改革特別委員会を開会いたします。
日程第1でございますが、議員のなり手不足と議員定数についての意見交換をさせていただきます。皆さん、先般の議会報告会、本当にお疲れさんでございました。

それから今日の委員会に間に合わせるために、今回北地さんをお願いしまして、報告会のアンケートの中の問い3について取りまとめをいただきまして、こちらをたたき台にできたらと思います。ほかの審議もしなければなりません、よろしく願いいたします。

我々委員会の中で関係の深いアンケート、問い3になろうかと思えます。タブレットのほう、皆さんお読みになりましたかね。昨日アップしたので。

(発言する者あり)

○網谷委員長 一応口頭で説明させていただきます。

今回の議会報告会についての市民の方の参加者が、トータルで35名。A班のアゼリアおたけが11名で、玖波が20名、21名ですが1人子供さんでしたので20名でございます。それからおがたピア、こちらが4名で、トータルで35名でございます。

その中で、増やすべき・現状維持・減らすべき・どちらとも言えないという、4項目の問いがございまして、増やすべきが3件、現状維持が16件、減らすべきが9件、どちらとも言えないが7件、トータル35件でございます。

ということを踏まえて、報告会の各会場の雰囲気といいますか、議員のなり手不足、議員不足についてどういうやり取りがあったということを説明していただければと思います。A班からどなたか代表で発言していただければと思うんですが。

小田上委員。

○小田上委員 A班ですね。このアンケートについてはちょっと終わった後に書かれたものなので、中での話ということで、3点あったと思います。次回無投票になったらどう思うかとか、どうなれば立候補したいと思うか、選挙に出ようと思ったことがあるかっていう、一括で、どれでも構いませんのでっていう形で投げかけをしました。

全体の印象としては、市民の方、聞かれてもなというような感じだったように思います。ただ、若い方が、若者が選挙に出やすい環境をつくってほしいという声はありました。じ

やあ若者が立候補して議員になるメリットって一体何ですかっていう質問があったりしました。メリットについてはなかなかお答えが難しいかなというところではあったんですけども、あとは次回無投票になったら皆さんどう思いますかっていう投げかけに対して、直接の回答はなかったかなというイメージですね。

話の中ではこの定数の16の根拠っていうのが分からないので議論のしようがないというか、考えていく方法が分からないっていう言葉もありました。

あとは現状維持でって言われた方が、定数について直接現状維持がいいという発言を、報告会の中で定数についての発言は、その1件あったかなというくらいで、ざっくりまとめるとこのような形でした。過不足あればお願いします。

○網谷委員長 補足の説明は、また後からでいいですので。

B班のほうは。

副委員長、お願いします。

○西村副委員長 B班のほうは意見交換、テーマの議員なり手不足と議員定数についてを1つつ会場の皆さんにお尋ねをしたところ、議員のなり手不足、それから最後に選挙に出ようと思ったことがありますかについては、質問がありませんでした。市議会議員選挙が無投票になったらどう思いますかということにつきましては、逆に我々5名の議員に、あんたらはどう思うかと、1人ずつ答弁してくれというので終わったんですよ。そしたら、反応があると思いましたが、そのまま終わった。

なり手不足の解消はどうですかということについても、出てこない。選挙に出ようと思ったことはありますかという問いかけにも、ない。無言のうちに、じゃあ次に参りますというような拍子抜けの感じでありました。以上であります。

○網谷委員長 ありがとうございます。

C班、どちらか。

小中委員。

○小中委員 C班は、まず無投票についてどう思うかという点については、特に意思を表明される方がおられませんでした。定数について何か資料を見て、大竹市っていうのは竹原市と安芸高田市の中間で、竹原が14で安芸高田が16だから、15ぐらいになるのかなというようなことを言われまして、ただそんなことよりまず先にやるのがあって、学校を減らせとか、その方の意見としては、経費削減のためにはそんな議員定数削減するより学校を減らしたほうがええという意見の持ち主で、私は到底承服しかねたんですけど、反応はしませんでしたけどね。しようとしたら遮られました。

最後のなり手不足について、特に妙案があるわけじゃないけど、その方がおっしゃるには、議員というのに魅力がないということと、大竹市に魅力がない、それを何か言うてはりましたね。結局そのぐらいのことで、こうしたらええというようなことはありませんでした。ただやっぱり一番問題なのは、無投票かどうかというのを、4人やったから1人ずつ聞いてもよかったのかなとは思いますがね。いずれにしても、全く議論がかみ合わなかったという会議ではありましたね。

○網谷委員長 ありがとうございます。A、B、C、皆さんムード的には拍子抜けといい

ますか、議員のなり手不足と議員定数についてが我々の一番関心点でございましたが、そういうところかなというふうに思います。とはいえ数字としてはアンケートのほう一応出してもらっておりますので、こちらのほうは、皆さんこれからの協議の中で、議員全員のアンケートもございましたので、参考にさせていただければと思います。

これについて、ほかの委員の方も意見がございましたらお願いします。

報告会自体はあまり、改革特別委員会に関したことより、確かにB班でも地域のこと一番時間も割きましたし、意見も活発に出ておりました。今C班の小中委員の発言の中でも、改革以外の大竹市全体の意見が出たようですので、やっぱり市民の方は町全体のことが気になっとなんだなということを思います。

その中の1つが今回の無投票ということでございますので、その辺のことを踏まえて、皆さんのほかに意見がございましたら、報告会についての何か。

小田上委員。

○小田上委員 先ほどはこういうことがありましたという報告で、特段意見を述べたつもりはなかったのですが、意見というか感想ですよ。何で16人なのっていう問いかけがありました。大竹ができてからどんどん減ってきている経緯を、資料を作っていて、その経緯が説明できたんですが、じゃあなぜ16人なのかと言われたときには、財政上の理由で2人とか1人とか減らしてきたよねと。じゃあこの16人っていうものに対しての根拠っていうものが、持ち合わせてないなど、ある意味ですね。そういうところはすごく感じたので、できればこの改革の中で、この定数の根拠っていうものをしっかり考えていべきなのかなと。条例で各市町ごとに決められるので、その根拠を大切にしていけないといけないかなと思ったところで、やっぱりお聞きした中では、議員の仕事っていうのがやっぱり分かってないというところで、細かい発信をしてくださという声もありました。SNS、例えばこういう議案の審議してますとかっていうのも、この議案ってこういうものですよって解説みたいなものも含めて細かく出してくれれば、議員が今何やってるのか、議会が何をやっているのか分かると。おっしゃるとおりだなというのは感じました。

なので、この16人で今何をしているかっていうところは、しっかり、以前も仕事の棚卸しみたいな作業はやっていけないといけないのかなと。そうしないと、無投票になっとう思いますかって言ったときに何の発言もなかったように、あまり関心がないというか、自分たちで決めないといけないのかなというふうには思いました。決めていく手順として仕事の棚卸し、それができれば人数の根拠っていうものも見えてくるかなっていう気がしたのが今回です。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

なぜ議員が16人なのか、それから議員の仕事は何をしているのか、それから仕事の棚卸し、ちょっとその辺のところを。

小田上委員。

○小田上委員 棚卸しっていう言い方が正確なのかどうか分からないですけど、今こういう委員会があって、委員長がこういう仕事をしますと。委員は事前に資料を見てきてとか、

議員として議会として、こういう仕事があるよねと、仕事の種類とその仕事にかかる時間と内容ですかね。そういうものをある程度整理していったら、それをうまく回していくためには何人必要なのかと、何人いるのが好ましいのかという数字が出てくるんじゃないかと。ただ何も分からない状態でさあどうしようよりは、話がしやすくなるのかなというふうには感じました。

○網谷委員長 ありがとうございます。

ほかに委員の方、どうですかね。

北地委員。

○北地委員 意見というよりは感想というんですかね、今回議会報告会を開いて実際やってみて、なり手不足というテーマでやったんですけども、いざ報告会をやってみると、市民にそのような関心がないというのか、無反応というのか、そういう感覚で受けたわけなんですけれども、よその地区におかれてもそんな感じだと、そのテーマについては終わったというような報告を先ほど受けたんですけども、何でこのテーマが生まれてきたのかというのが、今、率直な疑問です。

本当に市民がそのように思ったのか、定数削減とかそういうことをほんまに市民が思っていたのかどうかというのも疑問になって、今後どういう形でこの委員会の審議を進めていくのか、どういう方向に向けていくのか、ちょっと考え直さなきゃいけないのかなというのが正直な現在の気持ちなんですけれども。どちらにしても先ほどから小田上委員が言われるように、何をやるにしてもその根拠、現状維持なら現状維持の根拠とか、そういったものを今後審議していかんやいけないのかなと。減らすなら減らすでその根拠をきっちり固めていっていかんやいけないのかな、市民に対してどう答弁するのか、回答といいますか、そういうのをしていかにやいけないのかなというところが、今後の委員会の審議の流れになっていくのかなと。

それにしても、それをどういうふうに通っていくのかなというのが、ちょっと私自身、今現在すごく悩んでいるところで、今後どのように進めていくのかというのが、心配の種でございます。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。今後の活動方針、スケジュールということ。

ほかに。

原田委員。

○原田委員 私は今までの議論のままでいいと思うんですが、今回参加者が少なかったりとか多くの意見が上がらなかったっていうのは、一つはもう無投票から3年弱たってますから、そういう意味で若干中だるみの時期とかもあったりとか。

無投票で、すぐに議会報告会やってこのテーマだと、もう少し何か違った結果が出てたんじゃないかなというふうに思いますので、時期的なものなのかなという気がします。来年になって選挙が近づいてきましたら、またこういう議論も出てくるのかなというふうに思いますので、議論そのものは私は今までどおりで、この中で粛々とやっていくのがいいんじゃないかなというふうに思います。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

ほかにございます。

小中委員。

○小中委員 私はもうはっきり言って、残念というか情けないというか、無投票がいいかどうかぐらいは、あえてそこに来ようという人が、何で言えんのかなど。次、別に投票がなくても、現状維持のほうがいいっていうのはそれはそれでいいんだけど、議員にどうのこの聞くのもいいけど、自分の意思を表明できないっちゃうのは、ちょっと私は基本的に理解に苦しむ。せっかくそういう会に参加したのについていう思いはあります。

はっきり言ってこんなに標本数が少なかったら、全く参考にはならんだろうと。有権者数がどのぐらい、選挙人名簿登録者数がどのぐらいで、その分の中の35ですからね。この改革特別委員会でこういうのが出たのは、次に無投票になったらどうないすんねんちゅうのが原点なわけだから、それを外して討論のしようはないと思います。

実際多くの自治体でこういう定数削減とかいう話が出てくるのは、次も無投票になったらあかんからどないしよう。引退する人もおるやろうしというふうになるわけですよ。

例えば釜石市なんかは、引退する人数を予想して定数削減したにもかかわらず無投票になってしまったという、非常に笑えないような事態も発生したわけやけど、とにかく無投票をどないするんかっちゃうことが原点なわけだから、いかがなものかっていう意見がA班の人であったみたいですけど、それはその意見としていいんだけど、じゃああなたは、次の選挙が無投票でもいいんですねということだと思っんですよ。そこはどっちを選ぶかっちゃうのはその個々人の良識で、この数字は駄目なんだから、結局は議員一人一人がどう判断するんかっちゃうことになってくると思いますよね。

だからいずれにしても、次の選挙が無投票でもいいのかどうかっちゃうのが大きな判断基準になることはもう間違いないわけだから、最後に結論を出すときは、それが一つの判断材料になるっちゃうことは間違いないと思うんで、今から変えようと言ったところで、それはさして意味のないことだと思います。

○網谷委員長 要するに、これを全部対象にするわけではございませんので、これはあくまでも参考資料の一つでございますので、100%これだからという問題ではないと、私も思います。これからの議論の中で、ちょっと参考にしていただいたらという程度ではないかというふうに、私も感じておりますので、その辺のところの御了解は皆さん含んどうと思っております。

ほかに。

日域委員。

○日域委員 私は、小中さんと同じなので、4名しか来られませんでしたけど、少々残念でしたけど、昨日ぐらいでしたか、中国新聞の選挙絡みの連載ものでしたかね、韓国の選挙のことを書いてあって、いつもですよ、よくひっくり返りますよね、大統領選挙が。やっぱりころころ変わっても、それを皆さんいいと思ってるというようなことが書いてありましたけど、日本の場合あれですね、議員内閣制でなかなか政権交代という、仮にあって

自分たちが直接参加したっていうのを、ちょっと感じにくいところもありますね。

今回も議員の魅力がないとかいう話がうちのほうでもありましたけど、やっぱり地方議会というのは、国が決めた中の許された範囲の中の物事ですから、議会が何かしたからといってドラスティックにものが変わるわけでもないし、そういうのがあってそういうことになっているのかなと思います。けれども、やっぱり民主主義の何たるかっていうのが、本当には皆さん国民に分かってないよねっていう気はします。

例えば今回議員定数を減らすっていう話も、議会が減らそうやって言って減らしたら、すぐ変わるんですよ。権限は我々の手の中にあるんですけども、何か決めにくいから、じゃあ市民に聞いてみようっていう、ある意味では仕事を外注に出したわけですよ。外注に出したら、そもそも何で16人なんか、こちらが想定してなかった言葉が返ってきて、たじろぐというか、何じゃこりゃっていう感じに、今あるわけですけども、難しいなと思います。

16人がなぜかっていうのも、変に捉えたら禅問答みたいになりますけれども、でもやっぱり無投票がもし一般化したら、それこそどうなりますかね。そういう世界はありますけどね。事前に調整して、必ず実際には選挙にならないというような、いろんな世界の中にはありますけれども、やっぱり堂々と意見を述べ合って、それで競争があるわけですよ。

今回でも一番残念なのは、選挙があれば広報とかに意見書いて出すんですけども、それすら公表されませんよね。そしたら個々の議員が一体何を考えて選挙に出たかということも、よく分からんと。本当はやっぱり選挙あったほうがいいと思いますけれども、でも答えは出ませんでしたけどね。

例えば、うちのたった4人の中の1名の方は、防災無線の戸別受信機が欲しいけどくれんやったっていう不満を持って来られたみたいでしたけど、個々のことについては皆さんそれなりにはあるんかもしれませんが、今回ちょっと肩透かしというか、残念でした。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

ほかに。

藤川委員。

○藤川委員 私はB班、委員長と副委員長と同じ班なんですけど、先ほどもお二人がおっしゃったとおり、意見は出ませんでした。市民の方からは、わしらの意見より今は議員さんの意見を聞きたいみたいな感じになって、皆さんが各自答弁させてもらったんですけど、ほかにも手を挙げてくださいと副委員長が何度も御意見を求めたんですけど、議員定数については全く意見が出ず、出たテーマは地域の問題。地域のテーマを言えば、次から次へと出るような感じで、議員と大竹市民の皆さんの議員定数についての温度差ですか、その思いが全然違うんだなど。議員定数がメインテーマで、広報にも載せ、ポスターも貼り、やっているにもかかわらずこの人数だというのは、本当に興味がないんだなどという、思いでいます。

今後どうしたらいいのかなというのは、このちょっとあまりにも参加者の方が少ないので、私の中でもまだ悩んでいる状態ですけども、この35名の方、やっぱり言いたいこと

があるから無理して時間をつくって来てくれてるんだと思います。これは大切な御意見として今から受け止めて、進めていくべきではないかと思っております。

以上です。

○網谷委員長 ありがとうございます。

議長。

○賀屋議長 各班とも、議会報告会の開催に当たりまして、ありがとうございました。結論から言えば3会場で35人ということで、思っていたよりも少ない数字で、内心がっかりはしております。

先ほども意見ありましたが、関心が薄いというか。関心が薄いというのは議会に対して、政治に対しても市政に対しても満足をしているから、という感覚で自分の意見を持たない、言わない、そういう人がいるのか、それとも、今までも何回言うても、誰に言うてもええことにならんけえ、っていう形で、完全に政治とか議会とかと距離を置こうという感覚で関心を持たない、持てない、そういう方なのか、それとも全く興味も関心も初めからないと。何もわたらの世界と関係ないけん、どうなってもええという、そういう方々なのか。そういう3種類のお考えがあるのではないかなというふうに思います。今回まさにこういう結果になったということは、本当に関心のなさが露呈をしたんだなというふうに思います。

それで、当然先ほど1番目の関心の薄い、もう政治に満足しとるという形の中で、このテーマに関しても私が議会報告会、特に聞きに行く必要はないというふうに思われとるんであれば大いに結構な話かとも思いますけれども、恐らくそうではない部分で、関心が薄いのではないかというふうにも思います。

ということであれば、ますます議会の果たす役割がどうであるのかということも含めてしっかり検証し、反省をしてまた改善をしていく、あるいはアピールをしていくところをもっと力を入れていかないといけないのかなというふうにも思います。

今回のこのテーマに対して、減らすべきというのが全体で言うと4分の1ぐらいしかないということですので、数が少ない中で判断、当然できないわけですが、少なくとも一定の市民の考え方の方向性は分かったのではないかなと思います。これは一つの参考でございますので、これを踏まえて、また今からこのことについての議論を深めていただければと思います。

私のほうからは以上です。ありがとうございました。

○網谷委員長 ありがとうございました。

大体意見が出尽くしたとは言えませんが、今回報告会では、本当に議員定数、議会に対しての関心度が少ないのかなということは確かなようでございます。それから今議長が言ったように、諦めの心境も少しはあるのかなというような感じもいたします。

それで、これからの進行状態、活動方針ということになるかと思うんですが、ちょっと日程の第2、その他の部分に入りたいと思います。

ざっくりとしたスケジュールを申し上げておきたいと思います。まずは5月、6月は一応スケジュールどおりでは無投票を回避するための打開策ということ、それから7月、8

月は結論に向けての具体策ということで、こちらのほうが厳しい意見のやり取りになる可能性があるのではないかなというふうに感じております。

この5月、6月は比較的ちょっと軟らかい議論を進めていただきまして、9月に向かって決定を出すということでございますので、7月、8月は具体的にこれからどういうふうにやっていくか、これからまたアンケートなども取るのかどうなのか、その辺のところも考えていただきたいと思います。

9月にある程度の決定をしますと、議長のほうに最終報告書を、また答申という形になろうかと思っております。その時点で議長の主導ということになろうかと思っておりますので、代表者会議、議員の変更があれば条例改正に向けての準備になろうかと思っております。

議員定数の変更、代表者会議等で現状維持ならば、一応この件については終結とやっていいんですかね、そういうことになろうかと思っておりますので、これはまだいろいろ流動性があるかと思っております。それで最終的には、定数変更になった場合には、12月の上程ということになろうかと思っております。

以上、ざっくりとこれからの流れを申し上げたんですが、7、8月は9月に向けて大変白熱した議論が予想されますことから、5月、6月ぐらいでしっかり議論をしていただけたらと思っております。

確認のためお伺いしたいんですが、9月から始まりまして、皆さんの意見がございまして、初めの頃はまだ結論めいた議論は早いとか、まだ具体論は早いとかいう意見もございました。そうこうするうちに議会報告会の資料作りということになりまして、かなり時間を取ったわけでございます。もう4月も終わりですのでね、5月、6月ぐらいでしっかり、具体論までは行きませんが、いろいろな研究または協議をしていただいたらどうなのかなと。今皆さんが言われましたように、議員16人が、どこからその数字が出たのかとか、議員は何してるのか、なかなかこれを追求するというのも難しいかもしれませんが、こういう協議も必要ではないかという意見も出ております。

そして副委員長も前委員会で言われてましたように、年末の16名の議員のアンケートのこの検証または掘り起こしなども必要ではないかという意見も出ておりますので、その辺のところを皆さんがもう少しまとめていただいたら、進行の仕方も見やすくなるのではないかなと思っておりますが、この辺について皆さん、意見があればお願いします。

日域委員。

- 日域委員 一言ですけど、この段階でもう一回同じことをやったらどうですか、アンケート的なことを、16人でね。最初あの時期に皆さんに声かけて、でもよう分からんなりに、あの時点でこうかなと皆さん書いたんですけども、ここまで物事をやってきて、今の段階で同じ考えだとは限りませんからね。やってみたら面白いかなという気はしました。以上です。

- 網谷委員長 分かりました。一つの、この意見は小田上委員も最初に言われましたよね。もう一度どうかなということ、最初にね。

小田上委員、どうぞ。

- 小田上委員 当初は1回目のアンケートを取って、そこそこ議論が進むだろうというところ

ろで7月辺り、議論が進んだ後にアンケートどうですかという話をしたつもりでいました。なので、正直まだ議員にとって無投票の因果関係とか、打開策とか、今回無投票っていうところで報告会でも説明したんですけど、今までは財政面とかそういうところで変えてきましたと、定数を。ただ定数の話が俎上に上がる原因として、無投票っていうものは初めてなので、その受け止め方、市民の方はどう受け止められてますかっていうところを問いかけたんですが、返答がありませんでした。

ただ、そこに対して議会改革のメンバーがどう取り組んでいくのか、どう考えるのかっていうところは決めておかないと、今後定数を変えるにしても維持するにしても、凡例的なものはここで絶対に出来上がるので、因果関係から含めて、一からしっかり議論をしていきたいなと思います。現時点でアンケートって言われると、正直まだ何も進んでないので、僕は前と同じアンケートを書くかなと思います。

以上です。

○**網谷委員長** 議論を深めるということ。副委員長も前回そのような意味合いのことを言われたんですかね。なかなか議論を深めるというのをどういう手順で具体的にということがあれば教えていただきたいんですが。今回の報告会でも、これを市民の皆さんにお伺いしても、一切言葉が出なかったというようなことで、どういうふうに進めていったらいいかなと思ったんですが。

できれば掘り起こしというんですか、皆さんの今までの発言の中の、一番発言されて、文書化されているのが前回の16人の議員アンケートですよね。それを起こすということは不可能ではないと思いますが。

小田上委員。

○**小田上委員** 議員のもらったアンケートについて話をしたのも1回だけでしたし、表面的にさらっと触って、結局自分がどう書いたみたいな話に行っただけかなという記憶があります。なので1項目ずつ、議員が出した16名分のアンケートについて、今日はこの話をしますというところで話をしていけば、やっぱり自分はどの立場が一番近いというところ、ここは共感できる、ここは共感できない、こういう理由だからっていうところで意見を出して、いやいやそれは違うと思うよっていう、本当に議論ですよ。それができていければ、方向が見えたりもすることはあるんじゃないかなとは思いました。

そこに新たに市民の方からのアンケート、数は少ないですけど、それを踏まえた上での話もできるのかなと思いますんで、1個1個項目、あとはアンケートに書いてある内容を拾いながら、それ1つずつについてどう思うかっていう議論はやってもいいのかなと思います。

○**網谷委員長** 今提案が出たんですが、16名全員の意見を検証するというのであれば、これは相当な時間もかかるかと思いますが。2か月でこれ16名の方全部を検証するということがあったら、これ時間がどれだけかかるか分かりませんので、1番の方の意見を検証するということになるので、2時間と計算しても、1回が1人の時間かかるんじゃないかと。

○**小田上委員** アンケートは16枚ありますが、各委員が自分の意見に近くて、そうだと思うもの、疑問に思うもの、納得できないものとかに分かれると思うんです。各議員がピッ

クアップしてきて、項目については、アンケートの設問。

なので、そこについて話をしますというところで、皆さん16個あるうちの意見を委員ごとが抽出してきて、こういう意見があつてこうだと思ふというところで議論していけば、その1つの回答について議論するわけではなくて、その1つの設問に対して議論していけば、そんなに時間はかからないのかなど。時間はかかるとは思いますけど、1個ずつやってみていくというものと比べると、全然違ふと。

○網谷委員長 1個ずつということは、3質問。それを1個ずつという意味ですか。議員定数と無投票の関係とか、それから無投票の回避の打開策とか、それから議員定数の在り方とか、3つ設問しておりますよね。皆さんの意見は一応出てはいるんですがね、16名の意見がね。

小田上委員、どうぞ。

○小田上委員 意見は出てるんですけど、ここでその意見を、自分はこう思うよとか、揉んでないと思うんですね。なので委員長が作ってくださったスケジュール表にあるように、議員定数と無投票の因果関係についての項目で今日はやりますということであれば、16人分のアンケートを委員がそれぞれ見てきて、それについて深めるというところではできるんじゃないかなと思います。

なので、委員長が作っていただいた表をぎゅっと縮めたような形で、今日はこれについてやりますということであれば読んできて、準備もできるかなとは思いました。

○網谷委員長 これ、無記名ですからね。架空の人物としての意見ということになりますよね、これね。そうじゃない。

小田上委員。

○小田上委員 16個あるうちにこういう意見がありました。僕はこういう意見に近いんですけど、いいと思うんですけど、こういう理由で近いです、ただこっちの意見に関してはあまり近くないので、この意見を聞いてみたいとか、そういう議論ができれば、別に誰が書いたかどうかは関係ないかなと思いますけど。

○網谷委員長 副委員長、発言してください。

○西村副委員長 改めてアンケートを取るというのは、まだまだ中身を集約して、このたびの議会報告会を含めて、皆さんに尋ねたい。

一つは、8名しかいませんので、正副委員長とマンツーマンで個人面談をしたいという思いがあるんですよ。これは無記名だから、当然個人面談でも誰がしゃべったというのはないにしても、本人の話ができる、そういうのも一つの方法かなという思いがあります。

それで先ほどから委員長が言われるように、9月にある程度めどをつけて、12月の議会に出したいというのは、昨年もうしゃべるとるわけですからね。この6月、7月、8月までには9月のそういう結論をどうするかという結論づけにやいけんと思ふんですよ。

だからその点もはっきり改めて皆さんの意見、だからアンケートの内容は、全く違うアンケートでもええんですよ、作り方は。だけど本音をもう一回よく聞いてやらないと。それで中には、委員ではない議員もおつてだからその人たちとも意見交換というか、そういうアンケートあるいは面談とかいう方法はどうかかなという、私の思いです。

以上です。

○網谷委員長 小田上委員。

○小田上委員 委員会がありまして、委員がおりまして、ここにおける委員は責任を持ってやっているので、面談とか内々で話を聞かれるのはあるのかもしれませんが、ここで責任を持って発言をしようとしているんですね、この委員は。ここで本音を出してますし、ここで議論ができないと駄目だと思ってます、議事録が残る場で。なので、それをこの場でそういうふうと言われるのはあまり好ましくないんじゃないかなと、今聞いてて思いました。

副委員長が言われたものは、また後々のアンケートの話で、今は今あるアンケートでどう議論していくかっていうところを委員長に、こうしたらいいんじゃないですかっていう意見を言ってたところで、改革のメンバーに選ばれた委員でしっかり議事録残して話し合っていくっていうのが、筋だとは思いますが。

以上です。

○網谷委員長 原田委員。

○原田委員 今の責任を持ってという意味においては、やっぱり改革のメンバーは少なくとも記名で、ちゃんと自分はこういう意見なんだというものを出してもらわないと、議論にならないというふうに思うんですよね。しっかり自分の意見を出してもらって、意見交換というか議論をやるというようなやり方のほうが、時間的にもそういうふうなことに入っていてもいいのかなと思います。

16名の根拠、これ難しいことかなと思うんですが、現状維持にしたのは、どういう過程でどういう議論があっただろうか。減らす場合にはこういう議論があっただろうか。この過程でこうなったんだよっていうことを、この議会改革の中で結論を出す必要があると思います。

以上です。

○網谷委員長 皆さん議論の掘り起こしということをよく言葉に出されるんですが、このアンケート一つとってもなかなか難しいんじゃないかと思います。討論するなら別ですが、意見を整えてどうなるのかというと、あまり意味のあることかなというようなこともございまして、議会報告会で議論するというのもあったんですが、今小田上委員が言われたようなこの3項目についてを抜粋して、それを議論するでもないかも分かりませんが、副委員長の言われたように、面接ですか。これもまた大変なことじゃないかなということも思いますが。

小田上委員。

○小田上委員 委員長が想像つかないっていうのも分かります、お気持ちは。なので、どうですかね、ちょっと早い時期に一度、例えば僕がさっき提案した、定数の因果関係についてこういう意見があったけど、僕はこの意見が近いとか、これは分からないのでほかの方どう思いますかっていうやり取りを、一度やってみると。

で、そこに対して書いた人がおらんのじゃけ分からのじゃないかという声があるかもしれないですけど、それに近い意見の人がいたり、その意見を基に自分が考えてこうだと

思うとかっていうのを、やっていい会だと思うんですよ、アンケートを基に。これはこういうことだと思うと、で、こういうふうに理解する、だからこれを支持する、これが理解できないから支持できないっていう話を委員間でやっていけば、ほかの委員と理解度が違うのはもちろんあると思うんで、やってみて、これは全く事にならんということであれば、委員長が言われますとおり、想像できなかったのは仕方ないなと。

ただ、やってみて案外形になるなということであれば、やり方は細かくは変えていかないといけないところがあるかもしれないですけど、その方向でやってみようとかですね。ここで特段こうするのがいいとかっていうのがないのであれば、やってみたらいいんじゃないかなと思ってます。

○網谷委員長 ありがとうございます。

今小田上委員が言われたように、この3項目ももう一つレベルを上げまして、この無記名を記名にしまして議論するという手もないことはないですよ。これ、書いたのが皆さん御承知だろうと思いますので、別に隠す必要もないんでしょうから、自分の意見を書いとると思いますのでね。それを明かした上でやっても、僕は差し支えないと思う、皆さんどう思うか知りませんが。

ただ無記名のままでやりますと、どうしても霧が晴れてないような議論にはなりますのでね。どうですかね、その辺のところ。

小田上委員。

○小田上委員 すみません、正直どっちでもいいです。誰がどういう意見を書いたとかいうのが分からなくても、意見としては扱って、議論はできると思うんですよ。市民の方が書いたアンケートも誰が書いたなんて分からないけど、市民の方っていう意見として吸い上げて議論するとかっていうこと、改革のこの話じゃないにしても、ありますよね。なので、記名・無記名関係ないとは思いますが。現時点では。

○網谷委員長 ありがとうございます。

ちょっと空気換気もございますので、暫時休憩、10分ほど休憩させていただきます。

10時58分 休憩

11時13分 再開

○網谷委員長 それでは、休憩前に引き続き委員会を開会いたします。

ちょっと今の小田上委員の意見に対して、どうですかね。もう少し。

北地委員。

○北地委員 私も小田上委員と同じような考えなんですけれども、やっぱりこのアンケートが一つのキーにはなろうかと思うので、ここに3つのポイントがありますよね。その1つずつを今後詰めていくとか、検証していくとか、例えば因果関係の部分で、16のこういう意見がありますよと。それについて皆さんがどう思うかというのを議論すればいいのではないかと。ただ誰がどう言った、こう言ったというんではなしに、その意見についてこう思う、こう思うと。そうすると、自然に個人的に、自分はこっちの方向、こっちの方向というのが出てくるんじゃないかと思うんで、そういうやり方でもいいかなとは思いますが。

その次の打開策なんかは、これはいろんな方法があろうと思うので、こういう案があり

ますというのが出てくるんだろうと思いますので、そういった形で16の意見が、たちまち
は出とりますよと、たたき台として。それを自分としてはこう思うんだと、委員会として
は取りまとめていけばいいんじゃないかと思います。私はいいいとは思いますが、小田上さん
の意見で。

○網谷委員長 ありがとうございます。他の方、よろしいですか、それで。

よろしいということで、それでは時間配分ということになろうかと思えます。1日2時
間として、5月、6月で3べんということになりますと、5月にまずこの半ばぐらいに1
回と、6月に2回ぐらいで、議論について検証するということがよろしいですか。7月と
なりますと、具体的な皆さんの発言も出てくると思いますので。

北地委員。

○北地委員 テーマとして取りあえずはこの3つが出とるんですけども、他に何か出てく
れば、増えるわけですよ、結局は。この3つをする中で、またプラスアルファが出るか
も分かりませんので、その辺も加味してちょっとスケジュール組んどったほうがいいかな
と。

○網谷委員長 メインはこの3つにして、その都度、そのほかの項目で発言していただけれ
ばということで。

それではまず最初に、この、ちょっと具体的に今の北地委員、小田上委員の方向にもう
持っていくように、今決めさせてもろうたんですが。

16人の方の意見がございますよね。その方の意見が、私はこの何番が気にかかるのかい
うことを、それぞれの委員の皆さんに、発言していただいて、それについて議論を交わす
ということで、よろしいんですかね。

来月の半ばに1回やってみたいと思います。議員定数と無投票の因果関係についてを、
次回のテーマにするということでもよろしいですか。それじゃ、そういうことにさせていた
だきます。まずは1回やってみましょう。お願いします。

それでは、そのほかにまだあります。ないようでしたら、次回を開催をさせていただき
たいと思います。

次回は5月ですよ。中の週ぐらい、16の週ぐらいはどうですかね。次はもう6月の1
日で決まっておりますので。

〔「16日に議会運営委員会があるので」と呼ぶ者あり〕

〔「9の週」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 9の週がええ。9の週は。

〔「9は各派代表者会議だけ、その後でもええ」と呼ぶ者あり〕

○網谷委員長 昼からでもいいですか。それじゃ9に。

局長。

○三上議会事務局長 9は生活環境の、2市1町がありますので。

○網谷委員長 11、水曜日はどうですかね。

○藤川委員 私用が、すみません、入ってるので。

○網谷委員長 13日は皆さん、どうですかね。

13日、金曜日ですね。お願いします。

ということで、自分がこの意見が気になるということを前もって考えとっていただいたらということで、よろしいですかね。

それじゃそういうことですので、皆さん、心に秘めていただいて、そういう協議をしていきましょう。時間的には一応2時間という枠の中で、できる範囲でお願いいたします。それでは5月13日金曜日10時からお願いいたします。

以上で、議会改革特別委員会を終了といたします。

11時13分 閉会